

水の様態一雨、^{もや}靄、湿気

2022 年 5 月 28 日(土)～7 月 18 日(月・祝) 休館日：月曜日（5 月 30 日、6 月 27 日、7 月 18 日は開館）

雨はどのようにして描かれ、表されてきたのでしょうか。日本では、歌川広重の浮世絵《大はしあたけの夕立》にもみられるように雨の軌跡を線で描く文化があり、その手法は漫画やアニメにも受け継がれています。しばしばヨーロッパでは、降ってくる雨そのものではなく、水たまりや雨雲、雨傘を差している様子を描くことによって雨を示唆する表現が見られます。

本展では、当館所蔵品より、雨をモチーフにした作品をはじめ、靄や湿気、しずく、しぶきを描写した作品を展示し、水を表現することの難しさと面白さに注目します。湿潤な気候風土に育まれた日本的感性を、さまざまな作家たちの作品に見出すことができるでしょう。それぞれの水にまつわる多様な表現をお楽しみください。

作者名	作品名	素材／技法	制作年
坂口 綱男	安吾のいる風景 やさしい雨	ゼラチンシルバークラウドプリント、RC ペーパー	1983 年（撮影 1982 年）
高橋 信一	大佐渡	水彩、紙	1965 年
笹岡 了一	洪水（江戸川）	油彩、カンヴァス	1947 年
笹岡 了一	雨後の高原駅	油彩、カンヴァス	1953 年頃
堀越 保二	白雨	紙本着彩	1967 年
仲山 計介	瀧（二つの次元を繋ぐもの）	麻紙本岩彩	1997 年
吉原 芳仙	明けゆく社の図（白山神社）	絹本着彩	1961 年
秋山 庄太郎	鬱金香—チューリップ	カラープリント、紙	1989-90 年（撮影 1987-90 年）

※すべて当館蔵